

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

1. 事業の趣旨・目的

兵庫県には約 10 万人の外国人が居住している。そのうちの 4 割が新渡来者であり、日本で生活するために彼らの多くが、居住地域、勤務地域で日本語学習を望んでいる。その要望に応えるために、県内には約 70 箇所の日本語教室がある。どの教室も恒常的な学習支援者不足である。また、彼らに連れてこられた子どもたちも増加の一途をたどっている。子どもたちへの支援はどの教室も経験が浅く、試行錯誤で支援に当たっているのが現状である。

兵庫日本語ボランティアネットワークは県下の行政機関(国際関係課、教育委員会)国際交流協会、ひょうご日本語ネットと密接な連携関係を持っているので、人的ネットワークを生かすことができる。また、兵庫日本語ボランティアネットワークは日本語学習者のニーズに応えるための日本語学習支援者養成講座を開催してきた実績がある。この利点を生かし、「退職教員を対象とした日本語指導者養成講座」を行うことができる。

兵庫県では小、中、高等学校の教員が約 4 万人在職し、毎年約 1000～1200 人が退職する。退職者の多くが、退職後、地域社会で活動を望んでいるが、成人を対象とした社会教育の経験がある人はほとんどいない。ましてや日本語教育のノー・ハウを身につけた人はほとんどいない。

ここでは、彼らの教育経験を生かしながら、地域の「外国人」の日本語学習支援活動に必要な態度、知識、スキルを新たに身につけ、地域の日本語学習支援教室に通う成人や学校に在籍する日本語学習支援を必要とする児童生徒の支援者として活動できるように以下を目的とする。

- ① 講座修了者(退職教員)が兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動する機会とする。
- ② 講座修了者(退職教員)が自分の経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、教科学習支援に参加できるようにする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2011. 4. 28 15:00～ 17:00	兵庫県国際 交流協会 (神戸市灘 区脇浜海岸 通り1丁目)	岸本雅男 丸山巖 三木由美子 東慎太郎 山田耕治 矢野真也 向井俊隆 北村俊樹 水野マリ子 村山勇 石光潤子 石井真未枝	本事業の講座内 容・日程 広報などの提案	兵庫日本語ボランティアネットワー クより提案 質疑・承認

		岸本美紀 奥田純子 橘礼子 米原隆子 田中香織 長嶋昭親 湯口恵 延原臣二		
2011. 6. 30 15:00～ 17:00	同上	同上	講座内容最終確認 講座申し込み者の 確認	兵庫日本語ボランティアネットワー クより提案と報告 質疑・承認
2011. 8. 25 15:00～ 17:00	同上	同上	講座修了予定者の 確認 講座中間報告(	兵庫日本語ボランティアネットワー クより報告 質疑・承認
2011. 12. 16 15:00～ 17:00	同上	同上	講座修了報告 今後の課題	兵庫日本語ボランティアネットワー クより報告 質疑・承認



【写真-1】運営委員会風景 2011.6.30



【写真-2】講座風景 9 日目 2011.10.1

3. 養成講座の内容について

(1)講座名: H23 年度文化庁「生活者著しての外国人に対する日本語教育事業～教師等 対象日本語教育指導者養成講座～」

(2)養成講座目標:

- ①修了後、兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動できるようにする。
- ②修了後、自分の教職経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、教科学習支援に参加できるようにする。

(3)受講者の総数 : 26 人

(4)開催時間数(回数):4 時間 午前2h 午後2h (9 回)

合計36h 当初10回予定であったがそのうち1回気象警報発令のため9回に短縮した。

(5)参加対象者の要件:教職経験者で退職者および予定者を中心とした

(6)受講者の募集方法:

- ①兵庫日本語ボランティアネットワーク加盟のグループ会員へ郵送(メール便)案内
- ②兵庫県教育委員会より小中高校へ電子メールで案内

* 募集チラシは巻末添付

(7)研修会場: 神戸市生涯学習センター(コムスタこうべ)・

(8)使用した教材・リソース:各講師の手作りレジュメ

(9)講座内容

回 (※)	開催日	時間数	受講者数	講座名/学習内容	講師
①午前	7 月 23 日	2 時間	19 人	・オリエンテーション ・受講者自己紹介と異文化ワークショップ	多文化共生センターひょうご代表 北村広美
①午後	7 月 23 日	2 時間	16 人	・ 修了生 OB2名よりの実践報告 ・在日外国人の実情	赤穂市国際交流協会 ボランティア 久保公二 明石日本語教室コーディネーター 稲崎司 ベトナム in kobe ハ・ティ・タンガ
②午前	7 月 30 日	2 時間	20 人	外国から来た子どもの実情と課題	神戸大学教授 水野マリ子
②午後	7 月 30 日	2 時間	20 人	上記ワークショップ	神戸大学教授 水野マリ子
③午前	8 月 6 日	2 時間	24 人	子どもに対する日本語学習支援(1)概論＝課題提起	こうべ小学校教諭 村山勇
③午後	8 月 6 日	2 時間	23 人	子どもに対する日本語学習支援(2)リライトなど実践例	こうべ小学校教諭 村山勇

回 (※)	開催日	時間数	受 講 者数	講座名/学習内容	講師
④午前	8月20日	2時間	16人	子どもに対する日本語学習 支援(3)ワークショップ	こうべ小学校教諭 村山勇
④午後	8月20日	2時間	17人	子どもに対する日本語学習 支援(4)広島での実践例	広島県日本語指導員 二口とみゑ
⑤午前	8月27日	2時間	16人	地域子ども支援グループから の実践報告	子ども学習支援者 ・ 大和田邦子 ・ 中塚和代 ・ 竹中夕紀
⑤午後	8月27日	2時間	17人	県外の先進地域からの報告 と子ども支援グループとの交 流	神奈川県小学校校長 柿本隆夫 すたんどばいみー 支援員 ・ 大城 グスタボ アドリアン ・ チュープ サラーン ・ チャン ソワン ナリット
⑥午前	9月10日	2時間	21人	成人への日本語学習支援 (1)学習のリソース	近畿姫路大学 講師 吉田晃高
⑥午後	9月10日	2時間	21人	成人への日本語学習支援 (2)概要について	大阪大学大学院 教授 青木直子
⑦午前	9月17日	2時間	19人	成人への日本語学習支援 (3) 教材でないリソースの使い方	港島日本語教室 コーディネーター 尾形文
⑦午後	9月17日	2時間	16人	成人への日本語学習支援 (4) 成人の第二言語習得	大阪大学大学院 教授 青木直子
⑧午前	9月24日	2時間	20人	成人への日本語学習支援 (5) 習得を助ける話し方	北九州市立大学 准教授 小林浩明
⑧午後	9月24日	2時間	17人	成人への日本語学習支援 (6) 言語学習体験	子ども多文化共生サポーター 許智仁 港島日本語教室 コーディネーター 尾形文 港島日本語教室 スタッフ

回 (※)	開催日	時間数	受 講 者数	講座名/学習内容	講師
					濱本アミナ
⑨午前	10月1日	2時間	16人	成人への日本語学習支援 (7) 教科書を学習者に合わせる 学習体験	神戸定住外国人支援センター 支援者 高橋博子 日本語学習者 ・ 李向民 ・ 王小芳 ・ ルトゥフィ ・ フィトリヤ
⑨午後	10月1日	2時間	17人	・学校での支援活動 ・今後の活動について	兵庫県教育委員会人権教育課指 導主事 村松好子 兵庫ボランティアネットワーク 代表 長嶋昭親

(10) 講座の評価

受講生に対するアンケート 2011 年 10 月 1 日実施: アンケート回答者 20 名

1. この講座をどこで知りましたか。
 - a. 学校で 6
 - b. 兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で 3
 - c. 知人から 2
 - d. 地域の日本語教室で 5 (内1人 東灘日本語教室)
 - e. その他 4 (神戸新聞 2 インターネットと電話連絡)

2. 講座について

(1) 内容について

- a. よかった 13
- b. まあまあよかった 7
- c. ふつう 0
- d. あまりよくなかった 0
- e. 全然よくなかった 0

理由、意見:

- ・ 指導の要領(ポイント)が分かった
- ・ 東灘日本語教室のボランティア養成講座から引き続き立ったのでより深められてよかった。
- ・ 内容も実践発表や理論もあり充実していた。
- ・ これまではCHIC(六甲アイランドRICビル3F)で海外から来られた方へ日本語や生活指導を英語で行ってきたが現在やこれからの日本の状況には日本語で教える日本語の技術が必要。
- ・ カリキュラムにそって①何をどのように指導したか②記録を取って日本語指導にどのくらい時間を

かけなければいけないか③生活に活かされるか知る必要があります。

- ・ 自己主導型、アドバイジングの方法などが勉強になりました。リソースの種類、使い方に関して参考になりました。
- ・ 多くの先生方の支援についての話が今後のボランティアに役立つよう頑張ります。
- ・ 指導の中身、方法の紹介
- ・ 日本語教室運営に関する情報も一部紹介があって勉強になりました。
- ・ 普段受けられなかつた内容であつたから。

(2) 期間(2 時間×午前・午後×10 回)について

- a. 短かつた 0
- b. ちょうどよかつた 16
- c. ふつう 4
- d. 長すぎる 0

理由、意見:

- ・ 午前午後続くのはきつかつた。
- ・ 通うのに時間的にも個人的にも良かつた。
- ・ 講座によっては時間が足りないものもあつたが集中力を考えると程よい長さかと思う。昨秋福祉センターで受講した時は午後 4 時までだつたが少しきつかつた。
- ・ 土曜日の朝は、午後からの授業に出かける前で空いていないのと通常ではスケジュール的にちょっとしんどいかな？
- ・ 平日勤務後の時間(19 時～21 時)の講座を検討して欲しい。
- ・ 少し長すぎる。午前午後共に 90 分ぐらいが良いです。
- ・ 村山先生のお話が頭に残っています。私達が主催しています時に外国人教育講座にお越し願えればという計画にあがっています。
- ・ もう少し長くても(午前 2 時間→3 時間)。
- ・ 長くもなく、短くもなかつたと思います。
- ・ 現在臨時としてフルタイムで勤務しているので夏季休業中に講座の大半が終えられたことは大変ありがたいことでした。

(3) 講師・スタッフについて

- a. よかつた 12
- b. まあまあよかつた 6
- c. ふつう 2
- d.あまりよくなかつた 0
- e. 全然よくなかつた 0

理由、意見:

- ・ スタンドバイの人たちが印象深かつた。
- ・ いろいろな所で活動されている講師さんでバラエティに富んでいて勉強になりました。
- ・ 様々な方面からの体験や技術で教えていただいたことを自分なりに今後工夫する道筋が見えたように思う。
- ・ 分かりやすかつた。
- ・ 講義とグループワークの両方があつた。

- ・ わかりやすく良かったです。
- ・ いろんな取り組みをされている方をもっと受けたいと思った。
- ・ 講師に教授や支援ボランティア、学習者の方々が来てくださったことがよかった。また、体験発表などもとてもためになりました。
- ・ 理論と実際とを学ぶことのできる多くの成果が得られたことは講師の先生方の豊かな知識をご教授いただいたこと、そしてそのように講座を運営してくださったスタッフの皆様の陰のご支援あったればこそ感謝しております。

3. 講座を受けて

(1) 日本語学習を必要とする「外国」人の事情が

- a. よくわかった 8
 - b. まあまあわかった 8
 - c. ふつう 3
 - d. あまりわからなかった 0
 - e. 全然分からなかった 0
- 無回答 1

理由、意見：

- ・ 個々に当たってみないとわからないことが多いとあらためて思った。
- ・ 8 月 27 日の横浜で活動されている団体(＝スタンドバイミー)の発表はとてもインパクトがありました。
- ・ 韓国人の方が最初の 10 分間位全く日本語を交えずに話されたことは外国から来た方が始めて日本語に取り巻かれたときはあんな風になるんだと実感した。良い体験だった。
- ・ 各国の文化習慣の違いにより、日本語が理解できるだけでは日本での生活に不自由な部分が多々あるということ。
- ・ 仕事をしながら学習する方々はとても大変で継続が困難です。
- ・ 生活のために仕事をしながらで、その上で必要だったりその心情、内容、課題によって精神的に負担になるような事を考えさせられた。
- ・ もっともっと知りたくなりました。
- ・ これまであいまいにしかわかっていなかったことがかなり理解できるようになった。
- ・ 日本語教育の歴史的な変遷や現在進行中の教授法の根拠がよく理解できたのは「外国」人の事情についてそれぞれの立場や学習される目的について詳しい解説をいただいたからです。

(2) 日本語学習支援法が

- a. よくわかった 5
 - b. まあまあわかった 5
 - c. ふつう 6
 - d. あまりわからなかった 0
 - e. 全然分からなかった 0
- 無回答 4

理由、意見：

- ・ やって見ないとわからないことが多かった。
- ・ いろいろな支援法があるとわかりましたので実際にやりながら一番いい方法を取り入れればいいと

思います。

- ・ 理屈ではなく実践だと思う。日本語を理解できない人を前にするとただ教科書を教えるだけでは通じない。人間としての感情や重いがありそれをコントロールしながらやっていくことも考えるととても難しい気がする。
- ・ 支援法が分かったという事と実際に自分自身がやってい見るという事とは別と思う。
- ・ 前にセミナーを受けていたのでさらによく分かりました。
- ・ 実際自分がやってみないと何もいえない。
- ・ 初めてなのでまだわからないことが多い。
- ・ 実際に教える際、教え方あまり細かくしても相手が負担になるし、細かく教えたほうがいいのか日本語のニュアンスや難しさを考えるともっとしっかり勉強しないといけないと考えさせられました。
- ・ 「学習者主体」の大切さ。
- ・ 概念としてよく分かったつもりでも、実際に支援の場に臨めばやはり「初の一步」から自己研修を始めなければならないことは必定です。

(3) 「外国」から来た児童生徒の事情が

- a. よくわかった 3
 - b. まあまあわかった 7
 - c. ふつう 7
 - d. あまりわからなかった 0
 - e. 全然わからなかった 0
- 無回答 3

理由、意見：

- ・ 厳しい現実があるとおもいますが・・・。
- ・ いろんな外国の方がいらっしゃるのですね。
- ・ 大変さが分かった。
- ・ 家庭の事情や精神的な負担について色々知ることはできました。そういう事情を知った上で支援に入るのと入らないのでは変わってくると思いました。支援する側も課題は課題は上積みなのだと思います。
- ・ まだまだ知らない事が多いと思う。
- ・ 話を聞いただけだったので充分理解できたとは言いがたいです。講座で紹介していただいたケースについてはよく理解できたつもりですが、実際はひとりひとり全部それぞれの事情がおありになるかとだと思います。

(4) 「外国」から来た児童生徒への支援法が

- a. よくわかった。 4
 - b. まあまあわかった 5
 - c. ふつう 7
 - d. あまりわからなかった 1
 - e. 全然わからなかった
- 無回答 3

理由、意見：

- ・ やりながらその子に合ったやり方を見つけていけばと思います。
- ・ 子供の教育は深いと思います。
- ・ 家庭環境の事もあり難しいと感じた。
- ・ 成人と違って生活のため仕事上必要という状況と違って家庭の事情精神的な負担を考えると難しいと感じさせられました。
- ・ 実際に子どもを支援する機会がなかったのでよくわったとは言えません。
- ・ 細かい技術的なことは、修練を重ねて自己の能力を高めていくことが急務の課題ですが、最も重要なことは学習者のニーズを理解しそれにでき得る限り応えていくことだと膳講座を通じて認識できたように感じます。

3. これからのこと(複数回答有)

- a. 学校や地域で日本語学習支援に関わっていきたい 9
 - b. 今は、関われないが、将来関わりたい 5
 - c. わからない 2
 - d. さらに研修を受けて考える 2
 - e. 関わりたくない 0
- 無回答 2

これからのこと及び全体を通じてのご感想・ご意見

- ・ 来年4月から関わっていきたい。
- ・ ネットワークを広げていきたい
- ・ 日本語教育は難しいと思いました。学習すればするほどそう思いました。でもその日本語を必要としている子、大人があれば支援していけたらいいなと思いながら受講しました。様々な経歴の方と学び合えて(知り合えて)よかったと思います。スタッフの皆様にも大変お世話になりありがとうございました。
- ・ 講座を受けて支援の内容や実情は理解できてもいざ自分が支援者としてやっていけるは別と思います。
- ・ 研修も時々受けながら支援できる時間を持ちながらライフワークになればと思っております。
- ・ 今後研修を受けながら実際支援も出来れば考えています。
- ・ これからも研修を受けながら支援に関わっていきたいが生活支援となると不安、できるかどうか。
- ・ とても充実した講座内容でした。学習者の生活背景、事情、精神的な負担など、知ることができて、支援活動を始める上で助けになったと思います。様々な話、講演を聞くことができてとても有意義な時間でした。
- ・ まだ当分は迷っています。
- ・ 私の場合、一日中の研修は少しきついなと思いました。午前中他の講座(語学)も習っているので午後のほうが出やすいと思いました。午後だけの講座も設けてほしい。
- ・ ていねいな講座を計画していただきありがとうございました。学んだことがたくさんありました。少しでも社会に返せたらこれから少しずつですが進んでいきたいと思っています。
- ・ もし機会があれば、支援できるのではという気持ちになれました。
- ・ どうもありがとうございました。

- ・「はたしてわたしにできるだろうか」とおもいながらの受講でした。一歩踏み出す勇氣にも欠けているような気持ちでいますが大変有意義な体験でした。また折を見て研修を積んでいきたいと思います。
- ・この講座を学校で見かけたのですが「退職者対象」という言葉があったので当初それ以外の人は無理かなと思いました、実際と区別に対象を限定しているわけでもないのでもしかしたら実際興味を持ったが「退職者」という言葉を見てすぐ対象外と判断された人がいるかもしれないと思いました。
- ・P.S. 講座でいろいろと準備やお世話をしてくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。
- ・あつという間の10週間(私のにとっては9週間)であったように感じました。毎回本当に真摯にご教授くださった講師の先生方に触発されることが多々ありました。また、受講生のお仲間からもたくさんの刺激を受けました。スタッフの方々のさりげないサポートも心が和みました。アドヴァンスコースも受講したかったのですが今はやはり本務がおろそかにできませんので又の機会に再度受講できればと考えております。今回は本当に良い機会を与えていただき、うれしくありがたく厚くお礼申し上げます。

② 実施主体からの研修内容結果評価

Ⅱ 実施主体からの研修内容結果評価

- ① 、勤務校や地域で外国人児童生徒に出会い、問題意識を持った人が、ワークショップなどがとても盛り上がり、活発な活動ができた。
- ② 「外国人」の日本における現状を当事者(ハーティータンガーさん)から直接体験を通じた問題提起をしてもらったので、自分の身の回りの『外国』人の現状が認識できっと思う。
- ③ 子ども支援の当事者団体「すたんどばいみー」の若い支援者達は自分が日本語の学校生活を送った経験から、学校における外国人児童生徒をとりまく諸問題(彼らを生きづらくさせるもの)が明確になり、彼らが自立していくための方策を身をもって知らせてくれた。
- ④ 「外国」人への日本語学習支援の根幹は、「学習者自らが学ぶ」ためにどういいお手伝いをすればよいかである。本講座で「ポートフォリオ」を活用した日本語学習法はまさしく、それに応えるものである。少し難解ではあるが、受講生の多くがその意義を知ることができた。
- ⑤ 様々なシラバスに応じたカリキュラムの組み立て方や、具体的な支援法については若干時間不足だったと思う。

Ⅲ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ① 修了生に退職教師の養成講座修了生の会を作りメーリングリストで近況報告などを行い、更なる研鑽ができるよう情報提供する。
- ② 兵庫県内では「ひょうご日本語ネット」により県内の日本語関係者、行政、教育委員会関係者が月一度、集まり地域日本語学習支援や子ども支援についての方策について話し合いを持っている。今後その活動をより深化するにすることで支援システムを構築する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

昨年度(平成 22 年)ひょうごボランタリー基金行政・NPO 協働事業助成(NPO提案型 第 2 年次)事業「兵庫県内の企業等で働く外国人労働者およびその家族への日本語学習支援システムの構築」と連携、

モデル日本語教室設置運営へ本講座修了生を活用する予定。

② 研修後の人材活用

ア. 上記事業と連携し、モデル日本語教室の支援者として本講座修了生を活用する。

イ. 兵庫県内の地域日本語教室や子ども支援教室へ紹介し、支援者として活用する

③ 兵庫県子ども多文化共生センターの支援ボランティアとして登録をし学校などで支援する機会を提供する。

(12) 今後の課題

① 退職教師の持つ様々なノウハウを活かして、地域の外国人への支援活動に参加できるような体系的なシステムを構築することが課題である。

② 特に、外国から来た子どもたちが、自立していくような支援活動を構築していく必要があるのと、支援グループの情報交換のためのネットワーク作りが急務である。

③ 来年度は開催時間を元に戻し、今年度の120分単位を90分単位として教授者および受講者にとっても受講しやすいように変更する予定である。